

大学の世界展開力強化事業 構想概要 名古屋大学・東北大学

【構想の名称】(タイプA-I)

持続的社會に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成

【構想の概要】

持続的社會を実現する鍵となる化学・材料教育のアジアにおける中核拠点の形成を目的として、日本(名古屋大学、東北大学)、中国(南京大學、上海交通大學)、韓国(ソウル國立大學校、浦項工科大學校)が参加する化学・材料系の交流事業を行なう。世界のトップレベルの化学系分野を有する各大学の高い研究・教育ポテンシャルを相互に活用し、学生や教員の交換等を通じて世界的な協働教育拠点を形成させる。

■ プログラムの目的・養成する人材像

持続的社會をアジアの化学・材料分野で支える

これらの大学間での協働教育プログラムをもって中核拠点形成させることにより、化学系分野におけるアジアのみならず世界的な最先端の教育の推進が可能であると期待される。とりわけアジアでは人口増加と関連した諸問題が山積しており、環境、エネルギー、元素戦略、機能材料、生活アメニティーに係る諸課題を解決していくうえで、アジアの果たす化学・材料分野での教育の果たす役割は大きい。将来世界的に活躍できるリーダーとなりうる若手人材を育成していく。



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

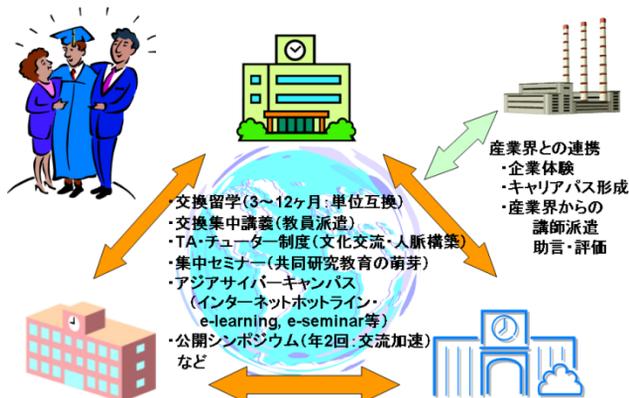
日中韓のトップレベル大学2校ずつによる強力なコンソーシアム

上海交通大學、南京大學、ソウル國立大學校、浦項工科大學校とも、それぞれの国を代表する大学である。中国の2大学は重点校に指定されており、韓国の2大学ともトップレベルの学生の質と研究アクティビティーを持っている。名古屋大学、東北大学とも、中国・韓国の4つの大学と授業料を免除する「相互交流協定」を既に締結しており、コンソーシアムを形成する大学とは、単位認定や成績管理を統一的に実施できる制度を整備している。

また、東北大学では、既にG-COEの枠組みで浦項工科大學校との学生交流を実施している実績がある。

トップクラスの学生の交流

交換留学生は、TOEFL IBT 70 (PBT530)相当以上で将来の活躍が期待される各大学の意欲的でトップクラスの学生から選抜する。本プログラムに語学研修を含めることにより、言葉の壁を取り払って活躍できる人材を育てる。産業界でグローバルに活躍できる人材の育成も視野に入れる。また、短期集中セミナーを随時企画し、専門分野のニーズに則した教員と学生の交流を行なう。



■ 教育内容の可視化・成果の普及

公開シンポジウムとインターネット

三カ国のローテーションで公開シンポジウムを開く。総合公開シンポジウムを年1回、専門分野に絞った公開シンポジウムを適時開催し、参加大学だけでなく、他大学や他機関にも広く公開し、他大学からの学生の参加も促し、成果の普及を行なう。さらに、ホームページを立ち上げインターネットにて常にプログラムの予定や成果を発信する。これらを通じて、常時教育内容を可視化し外部に発信する。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

名古屋大学

G30プログラム: 英語講義プログラムの充実(学部 5プログラム、大学院 6プログラム)、国際交流協定の拡大: 大学間(96機関)、部局間(209機関)、留学生宿舎整備: 2009年以降、約300室の増加(含む工事中)など

東北大学

G30プログラム: 英語講義プログラムの充実(10学部)、国際交流協定の拡大: 大学間(29ヶ国・155機関)、部局間(42ヶ国・323機関)、留学生宿舎整備: 220戸の留学生用学生寮に加え、2007年に約400戸の日本人学生・留学生混住型学生寮の竣工。2013年までに252戸増設予定

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

交換留学は、基本的に大学院生を派遣し、学生が希望する他国の研究室に一時所属して研究活動を通じた実習を行うとともに、各大学に特徴的な講義の受講による単位取得を行う。集中セミナーでは随時一週間程度でトータル20名の学生派遣を予定する。(表の学生数は集中セミナーも含む)

○ 外国人留学生の受入れ

学部生も含め学生が希望する他国の研究室に一時所属し実習を行い、各大学に特徴的な講義の受講による単位取得を行う。集中セミナーではトータル20名の学生受入れを行う。(表の学生数は集中セミナーを含む)

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0	28	32	32	32
学生の受入	1	28	32	32	32

大学の世界展開力強化事業 取組実績 名古屋大学・東北大学

【構想の名称】(タイプA- I CAMPUS Asia Pilot Program)

持続的社會に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成

【プログラムの目的・養成する人材像】

経済力を含め21世紀はアジア地域が世界の科学技術の役割と影響力がますます大きくなる。交流事業を通じて化学・材料分野において世界的視野で活動できる人材を育成する。

【構想の概要】

持続的社會を実現する鍵となる化学・材料教育のアジアにおける中核拠点の形成を目的として、日本(名古屋大学、東北大学)、中国(南京大學、上海交通大學)、韓国(ソウル國立大學校、浦項工科學校)が参加する化学・材料系の交流事業を行なう。世界のトップレベルの化学系分野を有する各大学の高い研究・教育ポテンシャルを相互に活用し、学生や教員の交換等を通じて世界的な協働教育拠点を形成させる。

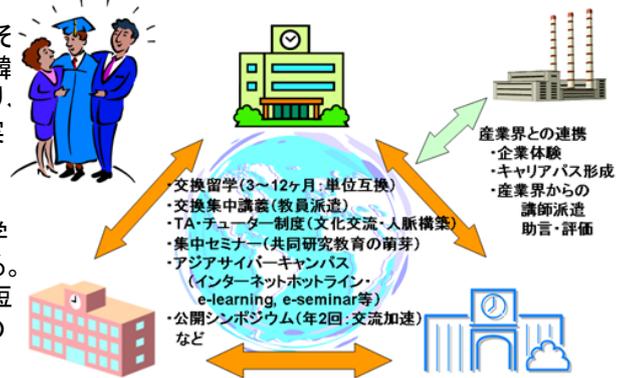
■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 日中韓トップレベル大学2校ずつ参加の強力なコンソーシアム

上海交通大學、南京大學、ソウル國立大學校、浦項工科學校とも、それぞれの国を代表する大學である。名古屋大學、東北大學とも、中国・韓国の4つの大學と授業料を免除する「相互交流協定」を既に締結しており、コンソーシアムを形成する大學とは、単位認定や成績管理を統一的に実施できる制度を整備している。

○ トップクラス学生の交流

各国の意欲的でトップクラスの学生から選抜する。本プログラムに語学研修を含めることにより、言葉の壁を取り払って活躍できる人材を育てる。産業界でグローバルに活躍できる人材の育成も視野に入れる。また、短期集中セミナーを随時企画し、専門分野のニーズに則した教員と学生の交流を行なう。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

名古屋大學でキックオフシンポジウムを開催(2012/3/12-13)



○ キックオフシンポジウムの開催

平成24年3月12-13日に、6大學の関連教員と学生を一堂に会するキックオフシンポジウムを開催し、情報交換と交友を深めるとともに、今後の事業展開について意見交換を行った。

○ サイバーキャンパス形成に向けたインフラ整備

平成23年度に大學間でリアルタイムで情報交換を行い、ネットを通じて国を超えたセミナー開催ができるように、テレビ會議システムを整備した。今後本格的に活用していく。

○ 参加部局を超えた交流へ

大學間の協定に基づき、有効な交流のために参加部局を超えた交流へ向けたアプローチも積極的に考慮していく予定である。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

交換学生では、基本的に大学院生を派遣し、学生が希望する他国の研究室に一時所属して研究活動を通じた実習を行うとともに、各大學に特徴的な講義の受講による単位取得を行う。集中セミナーでは随時一週間程度でトータル20名の学生派遣を予定する。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	C1K0	C17K17	C16K16	C16K16	C16K16
中国への受入	J0K0	J17 K4	J16 K6	J16 K6	J16 K6
韓国への受入	J0C0	J17 C4	J16 C6	J16 C6	J16 C6

注) H23は実績、H24以降は計画。人数は交流セミナーとH24はSVSSの人数も含む。

○ 外国人留学生の受入れ

受け入れについても上記に準じて進める予定である。東北大ではH23年度に計画前倒しで南京大の学生を受け入れた。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 名古屋大学・東北大学における整備

両大學ともに、G30プログラムに採択されており、外国人講師の雇用や英語講義プログラムの充実、国際交流協定の拡大、留学生宿舎整備等を積極的に進めている。

○ ショートステイ・ショートビジット(SSSV)との連携

平成24年度は当事業の枠組みと連携させた形のショートステイ・ショートビジット事業が採択された。3か月に満たない学生の交流についても体制を整え(受け入れ、派遣ともに6名)、学生あるいは受け入れ側の諸事情に柔軟に対応させて学生を交流させる仕組み作った。平成25年度以降もこの申請を続けていく予定である。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページの開設・パンフレット・ニュースレターの発行

平成23年度にキャンパスアジア専用のホームページを開設し、広報活動と情報を広く共有できる環境を整えた。今後、パンフレット作成やニュースレターの定期的な発行を予定している。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 名古屋大学・東北大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

持続的社會に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成

【プログラムの目的・養成する人材像】

経済力を含め21世紀はアジア地域が世界の科学技術の役割と影響力がますます大きくなる。交流事業を通じて化学・材料分野において世界的視野で活動できる人材を育成する。

【構想の概要】

持続的社會を実現する鍵となる化学・材料教育のアジアにおける中核拠点の形成を目的として、日本(名古屋大学、東北大学)、中国(南京大学、上海交通大学)、韓国(ソウル国立大学校、浦項工科大学校)が参加する化学・材料系の交流事業を行なう。世界のトップレベルの化学系分野を有する各大学の高い研究・教育ポテンシャルを相互に活用し、学生や教員の交換等を通じて世界的な協働教育拠点を形成させる。

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

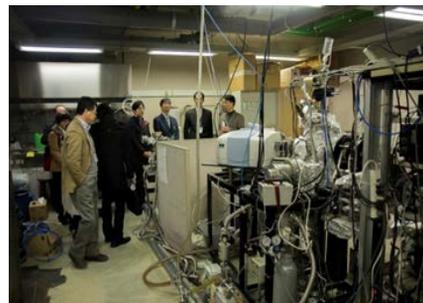
○ 日中韓トップレベル大学2校ずつ参加の強力な化学分野のコンソーシアム

上海交通大学、南京大学、ソウル国立大学校、浦項工科大学校とも、それぞれの国を代表する大学である。名古屋大学、東北大学とも、中国・韓国の4つの大学と授業料を免除する「相互交流協定」を既に締結しており、コンソーシアムを形成する大学とは、単位認定や成績管理を統一的に実施できる制度を整備している。

○ トップクラス学生の交流

各国の意欲的かつトップクラスの学生から選抜する。本プログラムに語学研修を含めることで、言葉の壁を取り払い、グローバルな化学者を目指すことができる。本プログラムでは、英語教育経験のある外国人研究者をキャンパスアジア特任准教授として採用し、化学者育成の英語授業を行っている。また、公開シンポジウムに加え、中韓の連携4大学を訪問し口頭発表を行う「教育交流検討会」を開催している。更に、D2学生には「D2発表会」で英語での研究発表を課すなど、英語での口頭発表を重視した教育を行っている。

(ソウル大での「教育交流検討会」)



実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(第二回 公開シンポジウム(南京大学 2013年3月))

○ 公開シンポジウムの開催

平成24年3月12-13日、名古屋大学でキックオフシンポジウムが開催された。第二回公開シンポジウムは、平成25年3月12-13日に南京大学(中国)で100名余の参加者を集めて開催された。第三回公開シンポジウムは、平成25年11月にソウル国立大学校で開催される予定である。

○ 連携強化に向けたネットワーク整備

連携大学間でリアルタイムの情報交換を行うため、またネットを通じて国を超えたセミナー開催ができるように、テレビ会議システムを整備した。今後、日・中・韓ネットワークの拡張を目指す。

○ 集中講義の実施

共同研究へ向けた少人数の研究交流に係る活動(出前集中講義)も積極的に行う予定である。



交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

交換学生では、基本的に大学院生を派遣し、学生が希望する他国の研究室に一時所属して研究活動を通じた実習を行うとともに、各大学に特徴的な講義の受講による単位取得を行う。

平成24年度は、7名の学生を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

受け入れについても積極的に進めていく。H23年度には、中国からの学生1名を受け入れ、平成24年度は、中・韓より17名の留学生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C1,K0	C15,K7	C6,K6	C6,K6	C6,K6
中国(C)での受入	J0,K0	J19,K3	J6,K5	J6,K5	J6,K5
韓国(K)での受入	J0,C0	J12,C3	J6,C5	J6,C5	J6,C5

注)実績値は白色、計画値は灰色

日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 名古屋大学・東北大学における整備

両大学ともに、G30プログラムに採択されており、外国人講師の雇用や英語講義プログラムの充実、国際交流協定の拡大、留学生宿舍整備等を積極的に進めている。

○ ショートステイ・ショートビジット(SSSV)との連携

平成24年度は当事業の枠組みと連携させた形のショートステイ・ショートビジット事業が採択された。3か月に満たない学生の交流についても体制を整え、学生あるいは受け入れ側の諸事情に柔軟に対応させて学生を交流させる仕組みを作った。平成24年度実績は、受け入れ7名、派遣5名である。平成25年度以降も必要に応じこのSSSVとの連携を活用する予定である。

教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページの開設・充実及び公開シンポジウム等を利用する直接的な広報活動

平成23年度にキャンパスアジア専用のホームページを開設し、広報活動と情報を広く共有できる環境を整えた。ホームページ充実の一環として、東北大学キャンパスアジアホームページを公開した。ホームページ充実と並行して、「公開シンポジウム」や「教育交流検討会」の場を利用し、日本に留学した学生の協力を得て、留学生周辺の学生、周辺研究室へ学生交流・研究交流の輪を広げていく。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 名古屋大学・東北大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA- I CAMPUS Asia Pilot Program))

持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成

【プログラムの目的・養成する人材像】

経済力を含め21世紀はアジア地域が世界の科学技術の役割と影響力がますます大きくなる。交流事業を通じて化学・材料分野において世界的視野で活動できる人材を育成する。

【構想の概要】

持続的社会を実現する鍵となる化学・材料教育のアジアにおける中核拠点の形成を目的として、日本(名古屋大学、東北大学)、中国(南京大学、上海交通大学)、韓国(ソウル国立大学校、浦項工科大学校)が参加する化学・材料系の交流事業を行なう。世界のトップレベルの化学系分野を有する各大学の高い研究・教育ポテンシャルを相互に活用し、学生や教員の交換等を通じて世界的な協働教育拠点を形成させる。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 日中韓トップレベル大学2校ずつ参加の強力な化学分野のコンソーシアム

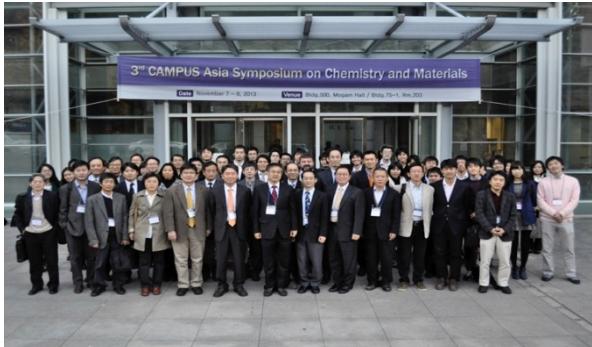
上海交通大学、南京大学、ソウル国立大学校、浦項工科大学校とも、それぞれの国を代表する大学である。名古屋大学、東北大学とも、中国・韓国の4つの大学と授業料を免除する「相互交流協定」を既に締結しており、コンソーシアムを形成する大学とは、単位認定や成績管理を統一的に実施できる制度を整備している。

○ トップクラス学生の交流

各国の意欲的かつトップクラスの学生から選抜する。本プログラムに語学研修を含めることで、言葉の壁を取り払い、グローバルな化学者を目指すことができる。本プログラムでは、英語教育経験のある外国人研究者をキャンパスアジア特任准教授として採用し、化学者育成の英語授業を行っている。また、公開シンポジウムに加え、中韓の連携4大学を訪問し口頭発表を行う「教育交流検討会」を開催している。更に、D2学生には「D2発表会」で英語での研究発表を課すなど、英語での口頭発表を重視した教育を行っている。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

第3回 公開シンポジウム (ソウル国立大学校 2013年11月)



○ 第3回公開シンポジウムの開催

平成25年11月7-9日に、ソウル国立大学校(韓国)で、100名を超える参加者を集めて開催された。平成26年度は、11月に東北大学で開催される。

○ 連携大学集中講義の実施

共同研究へ向けた少人数の研究交流に係る活動(出前講義)も積極的に行っている。また教育交流会の場でも、連携大学の教授による、訪問した学生を対象にしたレクチャーが行われている。

リサーチセミナー (上海交通大、2014年3月)



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

交換学生では、基本的に大学院生を派遣し、学生が希望する他国の研究室に一時所属して研究活動を通じた実習を行い単位を取得する。また、各大学に特徴的な講義を受講する。

平成25年度は、13名の学生を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

積極的に留学生の受け入れを進めている。平成25年度は、中・韓より20名の留学生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C1,K0	C15,K7	C11,K9	C6,K6	C6,K6
中国(C)での受入	J0,K0	J19,K3	J24,K2	J6,K5	J6,K5
韓国(K)での受入	J0,C0	J12,C3	J27,C7	J6,C5	J6,C5

注)H23~H25は実績、H26以降は計画。教育交流を含む。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 留学を見据えたサマースクール開催

東北大学では、学生が、サマースクールを企画し、外国人学生を招聘し、宿舎を手配し、スクール運営を行うことで国際的活動の経験を積んでいる。

○ 教育環境整備

名古屋大学・東北大学ともに、G30プログラムに採択されており、外国人講師の雇用や英語講義プログラムの充実、国際交流協定の拡大、留学生宿舎整備等を積極的に進めている。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページの強化及び公開シンポジウム、学生教育交流等を利用する多彩な広報活動

ホームページを拡充し、広報活動と情報を広く共有できる環境を整えた。ホームページ充実と並行して、「公開シンポジウム」「教育交流会」の場や留学経験者を活用し、キャンパスアジア周辺研究室へ学生交流・研究交流の輪を広げている。

サマースクール(東北大学、8月)



大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 名古屋大学・東北大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成

【プログラムの目的・養成する人材像】

経済力を含め21世紀はアジア地域が世界の科学技術の役割と影響力がますます大きくなる。交流事業を通じて化学・材料分野において世界的視野で活動できる人材を育成する。

【構想の概要】

持続的社会を実現する鍵となる化学・材料教育のアジアにおける中核拠点の形成を目的として、日本(名古屋大学、東北大学)、中国(南京大学、上海交通大学)、韓国(ソウル国立大学校、浦項工科大学校)が参加する化学・材料系の交流事業を行なう。世界のトップレベルの化学系分野を有する各大学の高い研究・教育ポテンシャルを相互に活用し、学生や教員の交換等を通じて世界的な協働教育拠点を形成させる。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈サマースクール (ソウル国立大学校、2014年8月)〉

○ 日中韓トップレベル大学2校ずつ参加の強力な化学分野のコンソーシアム

南京大学、上海交通大学、ソウル国立大学校、浦項工科大学校とも、それぞれの国を代表する大学である。名古屋大学、東北大学とも、中国・韓国の4つの大学と授業料を免除する「相互交流協定」を既に締結しており、コンソーシアムを形成する大学とは、単位認定や成績管理を統一的に実施できる制度を整備している。

○ トップクラス学生の交流

各国の意欲的かつトップクラスの学生から選抜する。本プログラムに語学研修を含めることで、言葉の壁を取り払い、グローバルな化学者を目指すことができる。本プログラムでは、英語教育経験のある外国人研究者をキャンパスアジア特任准教授として採用し、化学者育成の英語授業を行っている。また、公開シンポジウムに加え、中韓の連携4大学を訪問し口頭発表を行う「教育交流検討会」を開催している。更に、D2学生には「D2発表会」で英語での研究発表を課すなど、英語での口頭発表・質疑応答を重視した教育を行っている。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈第4回 公開シンポジウム (東北大学 2014年11月)〉



○ 第4回公開シンポジウムの開催

平成26年11月26-27日に、東北大学を会場として100名を超える参加者を集めて開催された。中国・韓国から学生・教員43名が参加した。平成27年度は、上海交通大学で開催される。

○ 連携大学集中講義の実施

共同研究へ向けた少人数の研究交流に係る活動(連携セミナー等)も積極的に行っている。南京大学及び上海交通大学の教授による連携大学セミナー2件実施(名古屋大学、2014年11月)また教育交流会の場でも、連携大学の教授による、学生を対象にしたレクチャーが行われている。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

交換学生では、基本的に大学院生を派遣し、学生が希望する他国の研究室に一時所属して研究活動を通じた実習を行い単位を取得する。また、各大学に特徴的な講義を受講する。平成26年度は、8名の学生を派遣した。

(短期留学3名を含む)

○ 外国人留学生の受入れ

積極的に留学生の受け入れを進めている。平成26年度は、中・韓より17名の留学生を受け入れた。

(短期留学1名を含む)

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C1,K0	C15,K7	C11,K9	C30,K9	C6,K6
中国(C)での受入	J0,K0	J19,K3	J24,K2	J2,K5	J6,K5
韓国(K)での受入	J0,C0	J12,C3	J27,C7	J15,C5	J6,C5

注)H23~H26は実績、H27は計画。教育交流を含む。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ サマースクール開催・派遣

今年はソウル国立大学校がサマースクールを主催し、すべての参加大学の学生が参加して講義、プレゼンテーション、工場見学等のプログラムを受講した。東北大学では、今年も学生が国際サマースクールを企画し、外国人学生を招聘し、スクール運営を行うことで国際的活動の経験を積んでいる。

○ 教育環境整備

名古屋大学・東北大学ともに、G30プログラムに採択されており、外国人講師の雇用や英語講義プログラムの充実、国際交流協定の拡大、留学生宿舍整備等を積極的に進めている。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ ホームページの強化及び公開シンポジウム、学生教育交流等を利用する多彩な広報活動

ホームページを拡充し、広報活動と情報を広く共有できる環境を整えた。ホームページ充実と並行して、「公開シンポジウム」・「連携セミナー」・「教育交流会」の場や留学経験者を活用し、キャンパスアジア周辺研究室へ学生交流・研究交流の輪を広げている。

URL キャンパスアジアホームページ
東北大学キャンパスアジアホームページ

<http://campusasia.apchem.nagoya-u.ac.jp/>
<http://web.tohoku.ac.jp/project-chem/indexj.html>

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成。

【プログラムの目的・養成する人材像】

経済力を含め21世紀はアジア地域が世界の科学技術の役割と影響力がますます大きくなる。交流事業を通じて化学・材料分野において世界的視野で活動できる人材を育成する。

【構想の概要】

持続的社会を実現する鍵となる化学・材料教育のアジアにおける中核拠点の形成を目的として、日本(名古屋大学、東北大学)、中国(南京大学、上海交通大学)、韓国(ソウル国立大学校、浦項工科大学校)が参加する化学・材料系の交流事業を行なう。世界のトップレベルの化学系分野を有する各大学の高い研究・教育ポテンシャルを相互に活用し、学生や教員の交換等を通じて世界的な協働教育拠点を形成させる。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(サマースクール (東北大学、2015年8月))

○ 日中韓トップレベル大学2校ずつ参加の強力な化学分野のコンソーシアム

南京大学、上海交通大学、ソウル国立大学校、浦項工科大学校とも、それぞれの国を代表する大学である。名古屋大学、東北大学とも、中国・韓国の4つの大学と授業料を免除する「相互交流協定」を既に締結しており、コンソーシアムを形成する大学とは、単位認定や成績管理を統一的に実施できる制度を整備している。

○ トップクラス学生の交流

各国の意欲的かつトップクラスの学生から選抜する。本プログラムに語学研修を含めることで、言葉の壁を取り払い、グローバルな化学者を目指すことができる。本プログラムでは、英語教育経験のある外国人研究者をキャンパスアジア特任准教授として採用し、化学者育成の英語授業を行っている。また、公開シンポジウムに加え、中韓の連携4大学を訪問し口頭発表を行う「教育交流検討会」を開催している。更に、D2学生には「D2発表会」で英語での研究発表を課すなど、英語での口頭発表・質疑応答を重視した教育を行っている。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈第5回 公開シンポジウム (上海交通大学 2015年11月)〉

○ 第5回公開シンポジウムの開催

平成27年11月5-7日に、上海交通大学を会場として、100名規模で開催された。日本からは、学生12名、教職員13名が参加した。日本からは、教員11名によるレクチャー及び学生による4件の口頭発表を行った。

○ 連携大学集中講義の実施

共同研究へ向けた少人数の研究交流に係る活動(連携大学セミナー等)も積極的に行っている。平成28年1月には、Tae-Lim Choi教授(SNU)の連携大学セミナーが2件開催された。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

交換学生では、基本的に大学院生を派遣し、学生が希望する他国の研究室に一時所属して研究活動を通じた実習を行い単位を取得する。また、各大学に特徴的な講義を受講する。平成27年度は、中・韓へ11名の学生を派遣した。

(短期留学1名を含む)

○ 外国人留学生の受入れ

積極的に留学生の受け入れを進めている。平成27年度は、中・韓より15名の留学生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C1,K0	C16,K7	C11,K9	C30,K9	C14,K1
中国(C)での受入	J0,K0	J19,K3	J24,K2	J2,K0	J17,K10
韓国(K)での受入	J0,C0	J12,C3	J27,C7	J15,C5	J6,C4

注) 教育交流活動の交流数を含む。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ サマースクール開催・派遣

東北大学がサマースクールを主催し、すべての参加大学の学生が参加して、東北大学教授のレクチャー・参加学生による口頭又はポスター発表・社会見学等のプログラムを実施した。このプログラムでは、学生が国際サマースクールを企画し、外国人学生を招聘し、スクール運営を行うことで国際的活動の経験を積んでいる。POSTEC国際サマースクールはMERS拡大のために中止になった。

○ 教育環境整備

名古屋大学・東北大学ともに、G30プログラムに採択されており、外国人講師の雇用や英語講義プログラムの充実、国際交流協定の拡大、留学生宿舎整備等を積極的に進めている。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ ホームページの強化及び公開シンポジウム、学生教育交流等を利用する多彩な広報活動

ホームページを拡充し、広報活動と情報を広く共有できる環境を整えた。ホームページ充実と並行して、「公開シンポジウム」「連携セミナー」「教育交流会」の場や留学経験者を活用し、キャンパスアジア周辺研究室へ学生交流・研究交流の輪を広げている。

URL キャンパスアジアホームページ
東北大学キャンパスアジアホームページ

<http://campusasia.apchem.nagoya-u.ac.jp/>
<http://web.tohoku.ac.jp/project-chem/indexj.html>